

財團法人

光丘文庫報告 第十四回 昭和十三年度

光丘文庫編

14. 5-760



1200501218560

100



始



14

70

昭和十三年度 自昭和十三年四月一日
至同 十四年三月三十一日

光丘文庫第十四回報告

財團法人
光丘文庫



光丘文庫書祭

光丘文庫紀要

發行所寄贈本

大正十四年十月十四日 東宮殿下台臨あらせらる

昭和三年九月十七日 朝香宮殿下台臨あらせらる

同 六年八月廿二日 澄宮殿下台臨あらせらる

同 八年六月廿八日 伏見宮殿下台臨あらせらる

同 十一年一月十九日 秩父宮殿下御宿本間家別荘に於て

本文庫圖書等の 台覽を賜ふ

同 年十月三十日 秩父宮同妃兩殿下台臨あらせらる

大正十二年六月一日 本文庫は酒田市本間光彌氏の寄贈に依りて創立す

同 年十二月廿八日 文部大臣より財団法人設立を許可せらる

同 十四年九月三十日 鐵筋コンクリート社殿造の本館及び書庫竣功す

同 年十二月十二日 開庫式を舉行す

同 十五年六月一日 以後毎年一回報告書を發行す

昭和二年 天 長 節 東宮台臨處碑除幕式を舉行す

同 三年十一月廿三日 大禮記念郷土参考室を附設す

同 年同 月廿五日 莊内博物學會を附設す

同 四年三月十一日 盲人の點字讀書會を附設す

同 十年 紀 元 節 文部省より表彰せらる

同 十三年四月廿四日 酒田文化協會を附設し毎月『文庫』を發行す

同 年十一月十一日 圖書祭を執行す





第一、事業の状況

一、閲覧成績

昭和十三年度に於ける圖書の閲覧状況を概説すれば、閲覧人員總數十六萬五千七百二十九名にして、一日平均五百六十六名なり、其の閲覧圖書總數十九萬一千七百三十五冊にして、一日平均六百三冊なり、これを前年度に比較すれば、閲覧人員に於て五萬七千六百七十名を増加し、閲覧圖書に於て八萬一千三十四冊を増加し、本文庫未曾有の記録を作れり、今次事變勃發以來、幾多の打撃を受けたるにも拘はらず、異數の發展を示し、聊か銃後報國の實績を擧げ得たるは本文庫の欣幸とする所なり。

本年度の成績に就きて之を館内閲覧、館外貸出、団体貸出文庫及び盲人巡回文庫の四種に大別すれば左の如し。

種別	開館日數	人				計	一日平均	冊	
		男	女	兒	童			閱	覽
館内閲覧	二九七	四五、六一一	六、六三九	五、四七二	五七、七二二	一九四・四	七二、〇九三	二四二・七	
館外貸出	三六五	八一、六二〇	一〇、七三〇		九二、三五〇	二五三・〇	九二、三五〇	二五三・〇	
団体貸出文庫	二五〇	一〇、七六七	一、六〇五		一二、三七二	四九・五	二二、七〇二	九四・八	
盲人巡回文庫	三六五	二、一九〇	一、〇九五		三、二八五	九・〇	三、五九〇	九・八	
合計		一四〇、一八八	二二〇、〇六九	五、四七二	一六五、七二九	五〇五・九	一九一、七三五	六〇〇・三	

目次

第一、事業の状況	一
一、閲覧成績	
二、附帯事業成績	
第二、處務の要件	七
一、官廳に關する件	
二、職員及賛助員の異動	
三、理事會・監事會・評議員會	
四、金員・物品・圖書寄贈者芳名	
五、雜件	
第三、會計	一六
一、財産目錄	
二、昭和十三年度收支決算	
三、昭和十四年度歳入歳出豫算	
第四、藏書	二三
一、藏書總數及内譯	
二、寄託圖書	
第五、雜錄	二四
一、圖書祭と祭神の由緒	
二、役員の表彰	
三、國寶及重寶増加目錄	
第六、特別縁故者及賛助員	三〇
第七、職員	三五

右閱覽者を綜合して種別すれば、學生生徒兒童最も多く、青年團員之に次ぎ、商工農業者、官吏、教員、盲人、宗教家、其他の順位にして、由來振はざりし婦人閱覽も、館外貸出を利用し、家庭と連絡をとりて、漸次讀書力向上の機運にあり。

圖書の閱覽傾向は、前年度と大差なく、事變の推移に従ひ、軍事、國防、産業、經濟、其他國民精神の作興、東亞問題の認識、列國の事情、科學的知識の涵養、職業的實生活の修練、一般生活の改善等、非常時に相應はしき讀書の多かりしは喜ぶべき現象なり。

今や我國は、未曾有の重大時局に直面し、東亞建設の使命達成に邁進すべき秋、一層讀書獎勵と圖書館利用の宣傳に努め、以て國運の發展に寄與せんことを期す。

二、附帶事業成績

一、大禮郷土參考室

昭和御大禮奉祝記念として、同三年十一月、本文庫に附設以來、主として郷土に關する文書資料を蒐集し、美術工藝品博物標本等を陳列して内容の充實を圖り、又一面には本間家を始め、地方篤志者に請ひて陳列品を借受け、無料を以て一般に公開す、本年度の觀覽者三千二百余名に及び、常に學術の研究、趣味實益の向上に資し、以て圖書館事業の補助機關と爲す。

二、附屬莊内博物學會

莊内博物學會は前記參考室と同時に開設し、爾來専ら自然界研究の中樞機關となり、莊内二市三郡に左記四ヶ所の支部を置く。

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 酒田飽海支部 (光丘文庫内) | 東田川支部 (莊内農學校内) |
| 鶴岡支部 (鶴岡中學校内) | 西田川支部 (大山尋常高等小學校内) |
| 會員總數 百二十四名 | |
| 總會を開きたること 二回、 | 協議題 三件、 |
| 講習會 (講師東京高等農學校 教授末松直次先生) 一回、 | 研究旅行 (大島湖方面研究) 一回 |
| 研究録第三輯刊行委員八名を囑託す、 | 本學會研究録第三輯を刊行す |
- (詳細は別冊莊内博物學會研究録第三輯に記するを以て此處に略す)

三、附屬點字讀書會

盲人知徳の向上を圖らんが爲め、昭和四年三月開設以來、點字の圖書、新聞、雜誌を酒田市及び飽海郡内の會員に回覽し、春秋二回總會を開く、秋の總會には其の家族をも招待して慰安會を開く。

四、體育獎勵

本文庫は、大正十四年五月、郷社光丘神社例祭奉祝の爲めにする酒田運動協會創立以來、屢々各種優勝旗並に優勝碑を

寄贈して後援する所ありしが、本年度第十四回は、莊内二市三郡の外、最上郡及び秋田縣由利郡の二郡を加へ、男女小學校、中等學校、青年團の出場選手實に一千六百六十九名に及び、其の盛大なること兩羽隨一と稱せらる。

四

五、附屬酒田文化協會

本年は本文庫創立滿十五年に相當するを以て、其の記念事業の一として、昭和十三年四月二十四日、本協會の創立總會並に發會式を舉行す、齋藤市長、本縣中央圖書館大場司書以下五十余名出席、會則を定め、役員を選び、事業計畫並に豫算を決定し、六月より機關誌として毎月一回「文庫」を刊行し、本文庫増加圖書目錄を附して讀者の便を圖り、隨時講演會座談會等を開催して、専ら本文庫事業を後援することに決定す、次で山形高等學校教授小松攝郎氏の「現代文化の意義」と題する記念講演あり、終て階上に於て祝宴を開く、最初の役員左の如し。(講演筆記は「文庫」第一巻に載するを以て略す)

會長 白崎良彌 副會長 太田喜八郎
幹事 藤井康夫 三ヶ尻 誠 佐藤三郎 佐藤四郎 白崎禎助
佐藤正吉

六、本文庫創立滿十五周年記念式

昭和十三年六月一日午後一時より左の順序に依り開會

國歌齊唱、宮城遙拜、勅語捧讀(文庫長)、文庫長式辭、來賓祝辭(田代中央圖書館長、鐵興社事務長渡邊茂雄氏)
式終了後階上に於て、簡素なる祝宴を開く、來會者本間顧問、文部省囑託本間順治氏、田代中央圖書館長以下七十余名來會者には機關誌「文庫」創刊號を贈呈す。

七、文化資料調査

前例に依り、昭和十三年十月二十五日、國寶保存會委員荻野仲三郎先生、文部省囑託田中一松氏の來港を迎へ、地方一般より文化資料並に美術品を本文庫に蒐集陳列して、一々嚴密なる調査を爲し、公衆に裨益を興へられたるは感謝に堪へず、茲に深厚なる謝意を表す。

八、圖書館週間と圖書祭

附博物館週間

毎年十一月の明治節を中心として、圖書館週間と併せて博物館週間を行ひし處、本年は政府に於て十一月七日より十三日まで、國民精神作興週間を行はるゝに付、これと同時に進行ふことに變更せり、行事はピラを市内に配布し、登館者には特製の葉を贈呈する等、例年に大差なきも、本年は酒田書籍商組合と共同主催を以て、新たに十一日午後二時より、普通閱覽室に於て郷社光丘神社岡部社司代理本多某齋主となり、奏樂裡に嚴かなる圖書祭を執行せり、(詳細は「第五雜錄」の部及び機關誌「文庫」第七號に記するを以て此處に略す)

九、事變關係者慰問其他

支那事變勃發以來、應召出征中の評議員松井庸知氏、事務員東根敏夫氏を始め、酒田市出身の出征軍人並に傷病者に對し、隨時新聞雜誌を寄贈して深く其の勞苦を感謝し、聊か慰問の意を表せり。
戦死者に對しては、蠟燭に文庫長の悼歌を添へて英靈に供へ、會葬して敬弔の意を捧ぐ。

十、講演會・座談會・童話會・映畫會

- 昭和十三年四月 二日 文庫利用者並に上級學校入試學生座談會を開く
- 同 年全月二十四日 酒田文化協會創立總會並に發會式終了後、山形高等學校教授小松攝郎氏の「現代文化の意義」と題する講演會を開く
- 同 年六月十三日 酒田市出身、漆工界の巨匠本間華氏妻子同伴にて歸省したるを機とし、其の作品を陳列して講演會を開く、來會者七十余名、次で同業者の爲め特に座談會を催し、實地に就きて懇篤に指導せらる、有志相謀り本文庫の後援に依り、記念として作品頒布會を組織せし處、輒ち多數の應募者を得、豫期以上の効果を收む
- 同 年九月十七日 酒田文化協會は、本文庫共同主催を以て、酒田文化振興座談會を開く、出席者二十三名、白崎會長より 明治天皇酒田 御巡幸記念日設定の件を提出して説明するや、總員起立満場一致を以て可決し、本年九月廿五日より實行し、爾後毎年同日市民一致を以て祝意を表することに申合せたり、因に記す、本文庫理事荒木彦助氏は、此舉を聞き大いに感ずる所あり、記念として光丘文庫基本金へ金叁百圓を寄附せらる
- 同 年十月 二日 酒田文化協會主催を以て木村毅氏を招聘し講演會を開き、併せて同氏原作のラヂオ放送を聴く
- 同 年十一月七日 點字讀書會秋季總會並に家族慰安會に於て、講師櫻井晋氏烏海宗晴氏の講話あり
- 同 年全 月八日 本文庫に於て酒田青年團讀書會の時局座談會を開き、東光日々新聞社長大川周三氏の講演

- 同 十三年十一月九日 本文庫は酒田文化協會共同主催を以て讀書座談會を開く
- 同 年全 月十二日 童話會を開き、講師烏海宗晴氏、加藤克哉氏のお話あり
- 同 年全 月十三日 文部省後援に依り、圖書館週間並に國民精神作興週間を行ふに先だち、委員西田祐太郎氏上京して、文部省よりフィルム數種拜借し來り、此日終日映畫會を開く、西田氏擔當の下に烏海宗晴氏説明に當る、小學兒童の來觀者約二千名に及ぶ
- 同 年全 月廿九日 本文庫に於て飽海教員會國史部總會を開く、白崎文庫長は酒田の生める偉人本間光丘・伊藤鳳山・阿部誠藏の三氏に就き講演す（講演筆記は機關誌「文庫」第二卷第二號以下連載）
- 同 十四年 一月十一日 酒田文化協會主催を以て、讀賣從軍派遣記者池田三郎氏の戦地實見談を聴く
- 同 年全月二十九日 松田甚次郎氏を招聘し、講演會及び座談會を開く、來會者百七十余名

あり

第二、處務の概要

一、官廳に關する件

昭和十三年四月 二日 酒田區裁判所に理事一名補缺選舉の結果、佐藤清治氏當選就任に付登記す

昭和十三年四月五日 酒田區裁判所に基本金拾萬貳千七百五拾圓を、拾萬貳千九百五拾圓に増額變更に付登記す
 同 年五月廿九日 文部大臣に本文庫第拾四回報告書を提出す
 同 年十月二十日 酒田區裁判所に基本金拾萬貳千九百五拾圓を、拾萬參千貳百五拾圓に増額變更に付登記す
 同 十四年三月廿九日 文部大臣に明年度收支豫算書を提出す
 同 年全月 全日 文部大臣に豫備資金借入承認願書を提出す

二、職員及賛助員の異動

昭和十三年五月一日 本間華氏を賛助員に推薦
 同 年七月十一日 賛助員長谷川吉内氏死亡
 同 年十一月一日 鳥海宗晴氏に委員囑託
 同 十四年三月十八日 評議員小石尙美氏、同谷壯藏氏轉任に付退職
 同 年全月全日 評議員任期満了に付全員改選（人名は「第四職員」の部に記するを以て此に略す）
 同 年全月廿七日 理事監事任期満了に付全員改選（同上）
 同 年全月全日 坂田昌亮氏、井坂三郎氏、山田三郎氏を名譽賛助員に推薦
 同 年全月全日 吉田金藏氏を賛助員に推薦

三、理事會

五回

協議案 十四件

監事會

一回

昭和十三年五月二十九日、理事會と同時に監事會を開き、昭和十二年度決算及び其他の件に付監査を爲す

評議員會

昭和十四年三月二十七日光丘文庫に於て第二十回評議員會を開く、出席者十名、委任者十四名、外に顧問本間光正氏
 文庫長理事白崎良彌氏、會計主任理事村田喜造氏、理事佐藤清治氏出席、左の事項を舉行せり
 白崎議長は、議事録署名委員として評議員小山太吉氏、土田一郎氏、を指名して議事に移る

二、議案

- 第一號 事業報告（承認）
- 第二號 昭和十三年三月三十一日現在財産目録並に昭和十二年度經費收支決算承認ノ件（承認）
 （第三會計の部参照）
- 第三號 賛助員推薦の件（承認）
 （第六賛助員の部参照）
- 第四號 理事監事任期満了に付改選の件（第七職員の部参照）
- 第五號 寄附金受納の件（可決）
 （第四金員寄附の部参照）
- 第六號 豫備資金借入の件（可決）

第七號 昭和十四年度事業計畫承認の件 (承認)
第八號 昭和十四年度收支豫算の件 (可決) (第三會計の部参照)

四、金員・物品・圖書寄贈者芳名

金員物品圖書等の寄贈を辱うし、事業の伸展に裨益する處尠からず、左に寄贈者の芳名を録し、深厚なる謝意を表す。

金員 の 部

一金 四百圓	昭和十三年度圖書購入費として補助	酒 田 市
一金 貳千圓	昭和十三年度經費へ寄附	本 間 光 正 氏
一金 貳百圓	昭和十三年度基本金蓄積費として寄附	本 間 光 正 氏
一金 參百圓	明治天皇酒田御巡幸記念日 設定記念として基本金へ寄附	荒 木 彦 助 氏

物 品 の 部

一、圖書祭神菅原道真公御神像	一幅	本 間 光 正 氏
一、日本舊銀貨幣	拾六個	佐 藤 清 治 氏
一、支那製青磁大形菓子鉢	一個	本 間 薺 華 氏
一、支那製青磁角形大皿	一個	荒 井 比 古 一 氏
一、櫻蔞繪丸大型盆 國光會展入選	一個	
一、大徳寺琢玄和尚書 加賀山桃里遺物	一幅	

圖 書 の 部

高松宮家より毎年御出版の圖書下賜せられ、本年度亦左記の通り下賜せられたるは、洵に光榮の至り感激に堪へず。

職 仁 親 王 行 實	一部	詔 仁 親 王 行 實	一部
織 仁 親 王 行 實	一部	有 栖 川 宮 記 念 選 獎 錄 第 六 輯	一部
		厚 生 資 金	一部

其他官公署、各種團體並に個人の寄贈者左の如し。(敬稱を略す)

文 部 省	陸 軍 省	海 軍 省	外 務 省	選 信 省	拓 務 省
特 許 局	朝 鮮 總 督 府	山 形 縣	酒 田 市 役 所	中 平 田 村 役 場	山 形 測 候 所
酒 田 郵 便 局	酒 田 驛	新 潟 鐵 道 局	余 目 町 教 育 會	東 北 振 興 電 力 株 式 會 社	南 滿 洲 鐵 道 酒 田 支 所
酒 田 商 工 會 議 所	京 都 市 役 所 觀 光 課	內 閣 統 計 局	樺 太 廳	山 形 縣 山 形 測 候 所	兵 庫 縣 巡 回 文 庫
長 岡 市 立 互 尊 文 庫	函 館 市 立 圖 書 館	臺 南 市 立 圖 書 館	早 稻 田 大 學 圖 書 館	日 比 谷 圖 書 館	宮 城 縣 中 央 圖 書 館
市 立 小 樽 圖 書 館	鶴 岡 市 立 圖 書 館	秋 田 縣 立 圖 書 館	彰 化 市 立 圖 書 館	新 潟 縣 立 圖 書 館	金 澤 文 庫
安 田 文 庫	成 田 圖 書 館	大 師 圖 書 館	日 本 互 尊 社	大 橋 圖 書 館	大 連 圖 書 館
寶 塚 文 藝 圖 書 館	宮 城 縣 圖 書 館 協 會	東 京 博 物 學 會	神 宮 皇 學 館	神 戶 市 立 圖 書 館	函 館 共 愛 圖 書 館
國 學 院 大 學 圖 書 館	大 阪 市 立 圖 書 館	東 洋 大 學 圖 書 館	山 形 縣 立 圖 書 館	斯 道 文 庫	東 北 帝 國 大 學 附 屬 圖 書 館
佐 藤 新 興 生 活 館	喜 早 圖 書 館	神 奈 川 縣 圖 書 館 協 會	鐵 嶺 市 圖 書 館	帝 國 圖 書 館	福 島 圖 書 館
青 森 圖 書 館	早 稻 田 大 學	酒 田 裁 縫 女 學 校	鮎 海 小 學 校 長 會 事 務 所	東 京 帝 大 醫 學 部	莊 內 育 英 會
				日 本 民 族 衛 生 協 會	

酒田中學校學友會	鶴岡中學校雜誌部	日本大學	桶岡高等女學校	本橋小學校	鮎海
東京帝大醫學部	酒田商業學校	酒田高等女學校	中外商業新報社	酒田新聞社	理科教育研究會
東光日々新聞社	酒田新報社	山形民報社	莊内春秋社	新莊内社	兩羽朝日新聞社
寫眞報國社	大阪毎日新聞社	學事新報社	岐阜日々新聞社	酒田時事新報社	日本讀書新聞社
國民工業學院	選舉肅正中央聯盟	大日本淨曲協會	遼試社	酒田時事新報社	山形新聞社
機械新聞社	遊就館	恩賜財團愛育會	大連海務協會	光明思想普及會	尺貫法存續聯盟
東京科學博物館	海防義會	明倫會本部	中和會本部	永遠の生命社	大蔵出版株式會社
山形縣教育會	日本のローマ字社	日本ボルトランド	東京電氣株式會社	大日社	帝國在郷軍人會
東京 堂	日本赤十字社	信濃郷土研究會	藝文社	明治圖書株式會社	山形支部
日本萬國博覽會	帝國	鎌田共濟會	小學館	日本衛生會	山形縣結核豫防會
和島債券部	大東文化協會	敬神會本部	今日の問題社	山形縣治水山林會	日本弘道會
日本弘道會	有志青年部	國民精神總動員	酒田日本基督教會	酒田針按同志	紀元二千六百年
大日本雄辯會	講談社	養蜂界社	富山ローマ字會	東光會	奉祝會
三井物産株式會社	後藤種親先生	啓明會同窓會	橫須賀海軍人事部	日本國教大道社	會通社
第一通信社	山形縣	學界展望社	大日本國防婦人會	山形縣本部	神乃日本社
クリチツク社	浮世繪同好會	骨の木社	星光社書店	滿洲讀書同好會	千草書房
千種書房	朝日書房	巖松堂書店	萩野仲三郎	帝國製紙株式會社	書物新報社
日本國民壽康會	朝日書房	巖松堂書店	田山信一	藤田經世	國際反共聯盟
ヘラルド雜誌社	萩原重逸	坪谷善四郎	本間與一	大瀧由次郎	遠東貿易月報社
萩原重藏	大瀧眞龍	吉野富雄	佐藤清治	本間寛治	本間順治
吉田金藏	西田祐太郎	大久保傳藏	今井義一	ラスピハリボース	渡邊茂雄
國府種徳	堀三三治	中村讀吉	今井正	本間華	中嶋經虎
佐藤雄能	佐藤朔太郎	今村猶次	渡部愈太	戸川安章	淺野康則
加藤仁平	吉讀豊明	藤塚熊太郎	大野勳	木村毅	赤谷重郎
池野文太郎	阿部正己	柴田甚五郎	松田甚次郎	白崎敬之助	田口三郎
佐藤豊三郎	阿部正己	柴田甚五郎	松田甚次郎	白崎敬之助	遠藤九郎
兒玉正治	甲崎成一	伊田春昌	小宮春三郎	服部正貞	佐々木磯一
遠藤信吉	岩本成一	伊田春昌	小宮春三郎	服部正貞	板谷宮吉
尾形順一郎	市橋政方	關悅郎	目澤秀元	高橋つねみ	白崎良編
大瀧竹雄	阿部佐太郎	高橋月南	赤谷孝次郎	高橋つねみ	白崎良編

五、雜件

- 昭和十三年四月二日 圖書館記念日に付國旗を掲げ、夜間上級學校入學者座談會を開く
- 同 年四月廿七日 伯爵酒井忠良氏夫妻、男爵大村純之氏夫妻一行參觀
- 同 年五月六日 東大教授理學博士楠木外岐雄氏飛鳴天然記念物調査に付來庫
- 同 年全月自九日至十三日 全國圖書館大會を東京科學博物館に開く白崎文庫長、佐藤司書出席
十日同大會に於て顧問本間光正氏表彰せらる(第五雜錄參照)
- 同 年全月十二日 十一日文庫長並司書は宮内省編輯官樹下快淳氏の紹介にて圖書寮書庫を拜觀す
- 同 年六月一日 私立圖書館懇話會を東京市小石川區後樂園懷德亭に開く、同文庫長司書出席
- 同 年全月四日 本文庫創立十七回記念式を舉行し機關誌「文庫」創刊號を發行す
伯爵柳原義光氏一行參觀
- 同 年全月十六日 本縣四市圖書館協議會を山形縣中央圖書館に開き、白崎文庫長、佐藤司書出席
- 同 年全月廿九日 齋藤酒田市長より昭和十三年度圖書購入費へ金四百圓交付の旨通謀あり
- 同 年七月六日 東京文理科大學助教加藤仁平氏天保御國替事件調査に付來庫
- 同 年全月廿七日 子爵酒井忠康氏、家扶毛呂百人氏來庫し、鯨城會を開き、舊松山藩關係資料を陳列す
- 同 年全月三十一日 本間光彌大人の御命日に付白崎文庫長は御墓並に本邸の佛前を拜す
- 同 年八月九日 慶應圖書館員國分剛二氏來庫
- 同 年全月十一日 本縣學務部長福永與一郎氏一行來庫

- 昭和十三年八月十四日 法學博士米田實氏一行參觀
- 同 年全月廿五日 東洋大學教授柴田甚五郎氏中江藤樹資料調査に付來庫
- 同 年九月十一日 別格官幣社菊池神社宮司中島仰氏來庫
- 同 年全月廿二日 貴族院議員松本學氏は本縣總務部長熊野周二氏と來庫
- 同 年全月廿五日 明治天皇酒田 御巡幸記念日に付、國旗を掲げ、記念塔を拜して祝意を表す
- 同 年全月廿六日 宮城縣立圖書館長菊池勝之助氏來庫
- 同 年十月十四日 東宮殿下台臨第十四回記念祝賀式を舉行し、來賓、職員及び特別關係者に本文庫第十三回報
告書を配布す
- 同 年全月廿七日 郷社光丘神社を「名所」に指定の旨、鐵道公報を以て發表せらる
- 同 年十一月十日 山形縣會議事堂に開かれたる本縣圖書館協會總會に白崎文庫長、荒木理事、庄司事務員出席
武井總裁より理事荒木彦助氏を表彰せらる(第五雜錄參照)
- 同 年十二月十六日 酒田中學校に開かれたる教護聯盟に文庫長代理佐藤司書出席
- 同十四年三月十二日 貴族院議員吉田茂氏來庫

第三、會計

一、財産目録

(昭和十四年三月三十一日現在)

一、基本金拾萬參千貳百五拾圓也

内譯	本立株式會社貸付金	一〇〇、一二五・〇〇
株式拂込金	東北振興電力五拾株	一、八七五・〇〇
	東北興業五拾株	一、二五〇・〇〇

基本金寄附者内譯

金 五 萬 圓	大正十二年六月一日維持基金として本間光彌氏寄附
金 貳 萬 圓	東宮殿下當地に 行啓且つ本文庫に 台臨あらせられたる記念として、大正十五年四月十五日 本間光彌氏寄附
金 壹 萬 圓	御大禮奉祝記念として昭和三年十一月十日、本間光彌氏寄附
金 貳 萬 圓	昭和八年六月一日、光丘文庫創立滿十周年記念として本間光正氏寄附
金 六 百 圓	基本金蓄積費へ昭和十一年度より同十三年度まで三ケ年間、本間光正氏寄附
金 壹 百 圓	昭和五年七月八日賛助員佐藤善兵衛氏指定寄附
金 五 拾 圓	登宮殿下光丘文庫 台臨に付昭和六年九月五日、中里酒田町長より謝狀に添へて寄贈

金 壹 百 圓	昭和七年二月十七日白崎謙吾氏の遺志に依り白崎良彌氏寄附
金 壹 百 圓	昭和九年十一月三日故理事松浦耕三氏の遺志に依り松浦浩太郎氏寄附
金 貳 千 圓	自大正十五年度、至昭和十年度十ケ年間、本文庫經費中より毎年貳百圓宛蓄積したる金額
金 參 百 圓	明治天皇酒田 御巡幸記念日設定記念として、昭和十三年十月二十二日荒木彦助氏寄附

酒田市下臺町百三十四番地現在 第一番建物

一 鐵筋コンクリート造、銅板葺社殿造貳階建本館 壹棟

建坪百七拾八坪六合 内六拾五坪壹合壹勺 二階坪

此評價格金五萬五千九百八拾壹圓

外ニ下屋坪拾八坪參合壹勺

此評價格金參千六百六拾貳圓

同所同番地現在 第二番附屬建物

一 鐵筋コンクリート造、銅板葺三階建書庫 壹棟

建坪六拾坪 内貳拾坪 二階、 貳拾坪 三階

此評價格金壹萬五千圓

一 圖書 四萬八千五百六冊

此評價格金八萬參千百貳拾貳圓六拾錢也

一備品什器 參千百貳拾貳點
 此評價格金貳萬貳千貳百四圓六拾五錢也
合計金貳拾八萬參千貳百貳拾圓貳拾五錢也

二、昭和十三年度收支決算

收入

科目	決算額	備考
基本金 補助金	五、〇九四 四〇〇	基本金ノ利子及ビ株式配當金 酒田市ヨリ圖書購入費へ交附
寄附金	二、五〇〇	二、〇〇〇圓本間光正氏本年度經費へ寄附 二〇〇〇圓同氏ヨリ基本金蓄積費トシテ寄附 三〇〇〇圓明治天皇御巡幸記念日設定記念トシテ荒木彦助氏寄附 圖書祭初穂料一〇〇圓本間光正氏同五圓酒田書籍商組合其他
雑収入	一、一六	
前年度繰越金	一三九	
合計	八、一二二	八六

支出

科目	決算額	備考
神社費	二五	
圖書費	一、五一二	豫算ヨリ減額シタルハ所要圖書ノ寄贈アリシニ由ル
附帶事業費	二二九	
會費	四〇〇	
報酬・諸給	一〇一	
旅費	三、三四九	
備品費	二八四	
通信運搬費	二九	
印刷費	一二六	
消耗品費	二五六	
修繕費	三六〇	
雜費	一九五	
事變關係者慰問費	四五二	豫算ヨリ増額シタルハ物價騰貴ニ由ル
	一九	
	四三	

創立滿十五周年 記念費	八九	二九	元金五百圓ノ内へ壹百圓年賦償還及利子 本間光正氏並ニ荒木彦助氏寄附 昭和十四年度へ繰越
借入金償却	一三〇	七六	
基本金蓄積費	五〇〇	〇〇	
次年度繰越金	四〇	三四	
合計	八、一二二	八六	

三、昭和十四年度歳入歳出豫算

歳入 經常部

科目	豫算額	摘要
基本金利子	五、一二九 _円	基本金ヨリ生ズル利子及ビ株式配當金
雑収入	二〇〇	
前年度繰越金	三〇〇	
經常部計	五、一七九	

歳入 臨時部

科目	豫算額	摘要
補助金	四〇〇 _円	酒田市ヨリ圖書購入費へ交附
寄附金	二、〇〇〇	本間光正氏ヨリ一般經費へ寄附
借入金	一、〇〇〇	本立株式會社ヨリ借入
臨時部計	三、四〇〇	
歳入合計	八、五七九	

歳出 經常部

科目	豫算額	摘要
神社費	三〇 _円	縣社日枝神社、郷社光丘神社初穂料 圖書購入及ビ製本費 郷土資料蒐集及陳列費等一五〇圓 莊内博物館會費及研究録刊行費一五〇圓 各記念日、圖書館週間、圖書祭、文化資料調査費等一〇〇圓 酒田文化協會費及ビ雜誌「文庫」發行費一五〇圓
圖書費	一、五〇〇	
大郷士參考室費	三〇〇	
附帶事業費	二五〇	
會議費	八〇	

報酬・諸給	三、七〇六	二〇	報酬、文庫長、會計主任各一名 諸給、司書、書記各一名、事務員三名(内一名出征中)、出納手、給仕各一名、小使、下足番各一名、宿直人夫費其他司書以下慰勞賞與金
旅費	二〇〇	〇	書庫内ノ書架増設其他
備品費	一〇〇	〇	電話使用料、郵税
通信運搬費	一五〇	〇	第十四回報告書、要覽、閱覽券、帶出券其他
印刷費	二〇〇	〇	電燈料、水道料、木石炭、筆紙墨等
消耗品費	二五〇	〇	各所修繕
修繕費	一〇〇	〇	植樹費交際費、一時借入金利子其他雜費
雜費	三五〇	〇	豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニ充ツ
豫備費	三八	〇	
經常部計	七、二五四	五〇	

科目	豫算額	摘要
負債償還費	二七五 ^円	元金(舊債)四〇〇〇圓ノ内(一〇〇〇圓、利子二五〇圓)新一〇〇〇圓ノ内(一〇〇〇圓、利子五〇圓)
事變關係者慰問費	五〇	出征軍人慰問及ヒ戦死者弔慰費

歳出臨時部

豫備資金	一、〇〇〇	〇
臨時部計	一、三二五	〇
歳出合計	八、五七九	五〇

第四、藏書

一、藏書總數

四萬八千五百六冊

此外未裝幀の圖書約五千冊あるも此處に算入せず

和漢書	四萬七千七百三十四冊
洋書	三百五十七冊
點字本(盲人用)	四百十五冊

- 東宮殿下台臨記念圖書 八百五十九冊 (東宮殿下台臨滿十周年記念圖書五百七十八冊 松森胤保遺著百八十九冊を含む)
- 福利館藏書 一千七百五十一冊
- 大泉坊藏書 一千二百七十七冊
- 本文庫創立滿十周年記念圖書 九 十 冊
- 文部省選獎記念圖書 四 十二 冊
- 戶田則素先生遺書 四百二十九冊

一、寄託圖書

- 一、野附文書 寄託者 野附勤一郎氏
 - 一、贈正五位白井太夫先生遺書及び遺物 寄託者 白井三郎氏
 - 一、池田玄齋先生遺書及び遺物 寄託者 池田定祥氏
- 其他略す

第五、雜 錄

一、圖書祭と祭神の由緒

近年各地に於て圖書祭を行ふを聞き、我等も亦私に翹望する所ありしが、會々酒田書籍商組合長中村禎吉君より圖書祭の希望あるを聞き、乃ち松本帝國圖書館長に照會せし處、未だ一定の祭神なきも、日本圖書館協會に於ては「圖書の神靈」の降下を請ふ旨の回答を受け、一面中村君よりも目黒全國書籍商組合長に照會せし處、是亦定まれる祭神なしとの回答を得たり、依て本間顧問に意見を伺ひし處、顧問曰く、先代光丘が曾て接待寺を建立し、之に經藏を附設して圖書館の事業を經營すべく幕府に請願し、後ち寶曆十一年の春、京都北野天滿宮御本社に於て松梅院に依頼し、菅原道真公の尊像に御神靈を御遷し申上げ、之を圖書館事業の守護神と定められしも、拮据請願すること三十余年の後、幕府より新寺建立は國禁の故を以て不許可となれり、從て此の事業も自然中止となつた、爾來毎年一月廿五日、拙家に於て奉齋し來りたる緣故も

あるから、此の神像を文庫圖書祭の祭神としてはどうかとの御話を承り、始めて斯かる由緒のあることを知り、意外の感激に打たれたり、本文庫は即ち此の接待寺圖書館の延長なるを以て、本文庫圖書祭の祭神としては之を措いて他に無きを信じ、早速理事會の同意を得て拜借方を本間家に申入たり、本間家に於ては我等の誠意を諒せられ、喜んで本文庫に寄贈せられたり、斯くて圖書館週間中の十一月十一日を以て、圖書祭を行ふこととなり、正午を期して白崎文庫長荒木理事同道して御迎に参り、本間家に於ては昔よりこの尊像の御祭りに與りたる家筋の修驗覺壽院を招じて、嚴かなる報告祭を行ひたる後、文庫長恭しく之を拜受し、御家族一同は玄關に御見送りあり、文庫長は覺壽院と顧問に護られて滞りなく文庫に御遷し奉り、顧問よりは左の寄贈書に添へて多分の初穂料を献備せらる。

記

一天滿宮尊像 一軸

右裏書

天滿宮尊像 一軸

京北野於

本宮開眼奉供養畢

寶曆十一年辛巳年三月二十五日

神事奉行松梅院

法印禪深 □ □

羽州庄内酒田住 本間光丘士

右箱書

表 天満宮眞影 土佐將監筆 壹匳

裏 接待寺什物毎歳以正月廿五日

可掛焉不許於他家謾掛之

本間久四郎光丘

今般全國圖書館ノ例ニナラヒ、光丘文庫ニ於テモ圖書祭執行ノコトニ相成候處、御祭神ハ各圖書館一定シ居ラザル趣ヲ以テ御相談ニ及バレ候ニ付テ、前記天満宮尊像ノ儀ハ、先人光丘接待寺建立並附設圖書館の事業經營ノ志願ヲ起シ候際、北野天満宮ニ願ヒ奉リ、右附設事業ノ守護神トシテ開眼供養ヲモ了シ候處、接待寺建立不許可ト相成、從ツテ該事業ノ經營モ自然中止ト相成候結果、爾來拙家ニ於テ毎年正月二十五日、奉齋シ來リタル次第御話致候處、圖書祭ノ祭神トシテ毎歳奉齋致度趣、御懇願モ有之旁々光丘ノ精神ニモ副ヒ得候事ト思惟セラレ候條茲ニ謹ミテ御寄贈申上候、就テハ先人ノ遺志ヲ體セラレ、光丘文庫守護神トシテ永世懈怠ナク御奉齋ナサレ候様致サレ度希望仕候也

昭和十三年十一月十一日

本 間 光 正 印

財團 光丘文庫長 白崎良彌殿

同日午後二時、閱覽室に設けたる祭壇に安置し奉り、齋主郷社光丘神社岡部社司代理本多信太氏以下各神職所定の座に

就き、齋主祝詞を奏し奏樂裡に嚴かなる祭典を執行せり、本間顧問以下玉申を奉奠し、次て文庫長は祭神の由緒及び酒田書籍商組合と合同主催の顛末を報告す、式終了後階上に於て六十余名の來賓と直會を開き、和氣瀟々裡に散會せり。

申も畏けれど、この御神像は、極彩色の衣冠束帯を召され神々しき御姿なり、掛物の總長さ五尺五寸、横二尺、表裝裂は菅公に縁りある梅鉢の金欄を用ゐ、軸は鍍金に梅花を鏤ばめ、軸先には光丘翁の紋所(卍)を現はし、極めて入神の意匠を凝らせり、これを拜しても翁が如何に崇敬の厚かりしかを窺ふに足るべし。

菅公は、學徳海内に高く、千歳の下赫々として人の心目を照らし、今に及んで洽く崇敬せざるものなし、殊に漢學隆盛の時代に於て、和魂漢才を稱道せられたる公の精神は、誠に日本人の本領を發揮せられたるものにして、斯かる精忠無二識見高邁なる公を祭神とするの光榮を得たるは、時運の然らしむる所なりと雖も、畢竟光丘翁の遺徳と光正君の誠款とに因る賜なりと云ふべし、文庫は之が爲めに一層の光輝を添え得たるは轉た我等の感佩に堪えざる所なり。

斯かる尊き由緒の御神像を奉戴し、本文庫守護神として永久に崇敬奉齋すべきは勿論、益々本文庫の堅實なる發展と、日本精神の強化を圖り、以て本間光丘翁並に本文庫寄贈者本間光彌大人の遺志を繼承し、今回御神像を寄贈せられたる顧問本間光正君の深厚なる芳志に副はんことを期す。(巻頭の寫眞版参照)

二、役員の表彰

一、昭和十三年五月十日、東京科學博物館に於て全國圖書館大會開催に際し、本文庫顧問本間光正氏に對し、圖書館事業功勞者として左の如く表彰せらる

感謝狀

圖書館ニ巨額ノ寄附ヲナシ我國ノ斯事業ニ貢獻セラル、コト甚大ナルモノアリ本協會主催全國圖書館大會ニ際シ顯著ナル貴下ノ功績ヲ錄シ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十三年五月十日

社團法人日本圖書館協會

本間光正殿

二、同年十一月十日、山形市縣會議事堂に於て本縣圖書館協會總會開催に際し、本文庫理事荒木彦助氏に對し、圖書館事業功勞者として左の如く表彰せらる

表彰狀

荒木彦助

夙ニ圖書館事業ノ重要ナルコトヲ洞察シ大正十二年財團法人光丘文庫創立セラル、ヤ初代文庫長ニ舉ゲラレ現ニ同文庫理事トシテ銳意斯道興隆ノ爲盡瘁セラレタル功勞甚大ナリ仍テ記念品ヲ贈呈シ茲ニ之ヲ表彰ス

昭和十三年十一月十日

山形縣圖書館協會總裁

山形縣知事正五位勳四等 武井群司

三、國寶及重美增加目錄 (第三輯)

昭和十三年度は我が莊内地方(三郡)に國寶の指定なきも、文部省より重要美術品に認定せられたるもの左の如し

重要美術品之部

認定年月	品名	點數	所有者	住所
昭和十三・五	刀 銘以南蠻鐵於駿州越前康繼濃州所生藤原藤野小刑部自珍	一口	五十嵐 松治	東田川郡押切村
全 十三・九	太刀 銘包永	一口	伯爵 酒井 忠良	鶴岡市
全 十三・九	刀 無銘傳一文字	一口	酒井 忠純	同
全 十四・二	絹本着色三十番神圖	一幅	本間光正	酒田市
全 十四・二	太刀 銘來國俊	一口	本間光正	同

賛助員 酒田市

鐵出羽銀行	酒田支店	本間 正七郎	本間 敬治
本間 壯太郎	本間 光祐	本間 竊吉	本間 友治郎
本間 與一	本間 光久	本間 鐵之助	本間 德次郎
杉原 伊兵衛	大谷 孫七	五十嵐 傳之丞	菊地 造酒彌
酒田木材株式會社	白崎 良彌	須藤 德之助	橋本 幸吉
阿部 久作	中村 太助	荒木 彦治	淺野 康則
五十嵐 みねを	越島 三郎治	松井 庸知	加藤 政之助
久村 慶作	菊池 秀言	上野 源治郎	秋野 平藏
大平 祐次	西田 祐太郎	竹内 丑松	高山 長一郎
小松 彌六	市原 平三郎	山田 與太郎	村田 喜造
佐藤 久吉	荒木 誠一	佐藤 公太郎	莊司 虎雄
鮎 海 郡			
藤井 伊一	本間 光勇	佐々木 米藏	土門 次郎兵衛
松澤 與喜雄	白旗 元六	本間 與市	佐藤 久太郎
佐藤 三郎	小松 八十助	太田 宣賢	本間 敏之
莊司 修理之助			

東田川郡

渡部 治左衛門	鈴木 新助	上野 太右衛門	藤井 名右衛門	藤原 宇平
乙坂 金藏	鈴木 仁助	加藤 彦右衛門	高梨 林太	佐藤 彌惣太
佐野 辰藏	乙坂 豊治	足達 伊助	熊谷 丹治	佐藤 與惣右衛門
佐藤 金吾	遠藤 孫右衛門	加藤 康吉	佐藤 多兵衛	佐藤 市左衛門
高橋 貞太郎				

西田川郡

齋藤 金吾	工藤 彦右衛門	大瀧 多郎左衛門	
梅本 八郎	伊藤 又一郎	松森 昌胤	
山形市	田中英男	佐藤 利兵衛	小松 治郎兵衛
山形支店			戸田 誠意
福島 良助			

米澤市

椿 宮太郎	戸田 虎雄	戸田 虎雄	二馬 盛次郎
-------	-------	-------	--------

東置賜郡

奥山 源太郎	長谷川 五三郎	石黒 七三郎	新藤 幸三郎
--------	---------	--------	--------

14.5
760

昭和十四年十月十日印刷
昭和十四年十月十四日發行

(非賣品)

編輯兼
發行者 白崎良彌
酒田市下臺町

印刷者 小松幸吉
酒田市本町七丁目

印刷所 小松活版所
酒田市本町七丁目

發行所 財團法人 光丘文庫

酒田市下臺町
電話五五一番

14.5
760

終

